

## 第1回検討委員会における意見

(雄勝地区統合小中学校)

## 1 建設予定地及びその周辺の整備計画について

- ・検討委員会では、学校の基本構想について検討を行うが、保育所や診療所に対する考え方を議論しないのか。
- ・建設予定地全体でのプランニングを検討する必要があるのではないか。
- ・保育所や公民館の併設についても検討してほしい。
- ・学校建設の前提となるのが道路整備。万一道路が破壊されて建設予定地が孤立したらどうするのか。道路が津波に破壊されたりしないのか。
- ・寄宿舍や道路環境という話もあったが、交通の便でも中心とするという発想が必要ではないか。
- ・学校だけが建設されるのは校長として不安。何らかの公共施設があると良いし、住宅も必要。立派な校舎が出来ても孤立が心配。
- ・居住地や産業地の話もまとめてアウトラインを出してほしい。子どもたちは雄勝の地を離れて欲しくないと思っており、これらを含めて総合的に進めていくことが大事。

## 2 開校時期について

- ・子を持つ親の立場としては、一刻も早く学校を建設してほしいという思いが強い。
- ・委員会の立ち上げが遅い。今後はスピーディに議論を進めてほしい。
- ・検討委員会の回数も限られている。早く建設するという観点で議論を進めてほしい。

## 3 特色のある学校づくりについて

- ・小中一貫校のメリット・デメリットを教えていただけないか。また、先進事例等を示していただけないか。
- ・小規模特認校についても検討してほしい。
- ・小規模校であることを逆に売りにしていく方策を検討すべきではないか。
- ・雄勝中は全校生徒が32人であり、今後さらに生徒が減っていく可能性がある。ピンチをチャンスに変えていくための検討が必要。いろんな地域から子どもを呼び込んでいく「出会いの場」としての検討も必要。
- ・今後、児童生徒の減少により、同級生がいない状況もありうる。小規模特認校化して、地域の魅力をアピールして、雄勝の学校に通ってもらうことも考えなければいけない。越境入学という意味では学校の魅力づくりが大事になってくる。
- ・小規模特認校化するといっても、いちいちバスで通学するのは面倒ではないか。そういった部分も考慮すると、相当な魅力が必要になると思う。
- ・雄勝を離れて行った人々が帰って来れるような学校を目指したい。
- ・地区外に出て行った人間を戻せることができ、他地区から人を呼び入れることが出来る学校を作りたい。
- ・支援センターにでも行かないと同じ世代の子どもたちには会うことが出来ない。

学校が親や兄弟も含めて皆が集まれるような施設になれば良いと思う。

- ・新しく建設される学校の運営については、地域で学校を盛り上げていくことが大切になる。

#### 4 子ども達等の学校づくりへの参画について

- ・新しい学校を利用できない子どもたちにも「母校」という意識を持ってほしいので、子どもたちを対象としたワークショップというものも考えられないだろうか。
- ・子どもたちに新校舎作りに関わらせるにはどうしたらよいかも考えて欲しい。
- ・魅力ある学校にすることが何よりも大事であり、子どもの思い、地域の思い、親の願いといったものを取り入れていく作業を早めにやらないといけないのではないか。

#### 5 地域の安全を確保するための学校づくりについて

- ・陸の孤島となる地区の学校に寄宿舎を建設してほしい。震災のときは山を越えて「ログハウス」に避難した。宿泊が可能な施設が必要なときは必ず来るのではないか。
- ・給食の自校方式化についても検討してもらえないだろうか。

#### 6 地域活性化の呼び水としての学校づくり

- ・寄宿舎の建設を考えてみてはどうだろうか。現在は、外から支援に来てくれる人の宿泊施設もない。この点、支援団体が桑浜小学校を再生しようと活動してくれている。一般（外から来た者）も頑張ってくれている。我々も何とかしないといけないのではないだろうか。
- ・雄勝を離れて行った人々が帰って来れるような学校を目指したい。
- ・地区外に出て行った人間を戻せることができ、他地区から人を呼び入れることが出来る学校を作って欲しい。
- ・支援センターにでも行かないと同じ世代の子どもたちには会うことが出来ない。学校が親や兄弟も含めて皆が集まれるような施設になれば良いと思う。

#### 7 その他の意見

- ・大須小学校校舎の取扱はどうするのか。
- ・養殖漁場の復興関係で海岸線の調査を行った。学校用地となる海岸部分の崩落が特にひどかった。海岸線の方もきちんとやってもらわないと問題がある。赤土の流出がひどく、漁場を沖合に持って行った経緯がある。